

第三十七回フオト旬会優秀作品(26年2月10日)

<自由題>



おもてなし田舎の駅に
見つけたり 大月 和彦
寸 評：駅の待合室の椅子に
夫々手造りのカバーが。これ
ぞ田舎のオバチャンのおもて
なし。カバーの模様が揃って
いないところに風情を感じる
のだ。

よかったら隣へどうぞ
御嬢さん 三春
寸 評：東京に何十年ぶりかの
大雪。雪だるまと背中合わせに
スマートな人物像が。雪が溶け
ない早朝に出かけて行って写真
を撮った根性を買いたい。



軒先や氷柱ブッシュで
バーボンを 大越 浩平
寸 評：「ブッシュ」という名の
スナックが白馬山麓にあるそう
な。軒先に連なる氷柱をポキンと
折ってバーボンのロックをつく
ると堪らん味がするそうな。



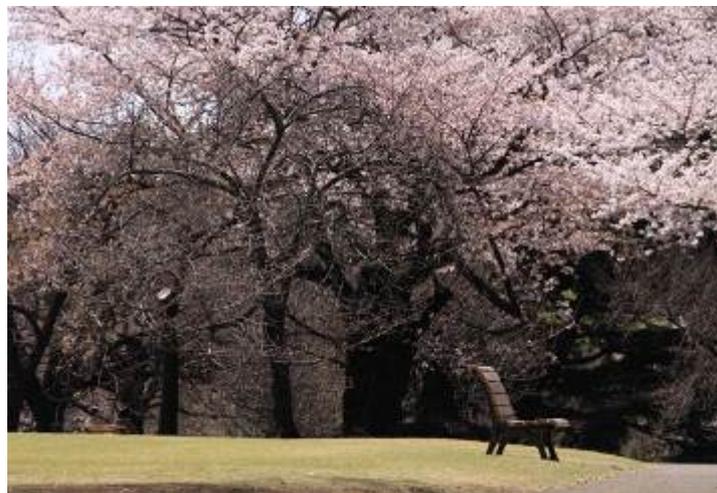
お百度を踏んでキツネに
化かされる 中村 晃也
寸 評：男女二人が多くの
鳥居を潜って何の祈願をして
いるのか。まさか二人で化か
し合っているのでは？
色彩感、遠近感のあるよい画
面である。

首ひとつ差し出せば

済むことなのか 中村 晃也
寸 評：なにやらデカダンな感じがす
るが前都知事の言動を思い浮かべる。
差し出す首が仏像の首であることが
救いとも皮肉ともとれるところであ
る。



1月のお題写真



句付け

- | | |
|-----------------------|-------|
| 1) 不貞腐れ桜の花に背をむけて | 中村 晃也 |
| 2) 誰を待ついろはにほへと散りぬるを | 三春 |
| 3) しずしずとベンチにひとひら桜花 | 安藤 晃二 |
| 4) かの人は桜の下に眠るなり | 矢沢 正二 |
| 5) 人住まぬ村のさくらはひとり咲く | 大月 和彦 |
| 6) フレッシュマンすぐにダッシュだ初仕事 | 下山 健夫 |
| 7) 約束のベンチに誰も来ぬ不安 | 中村 晃也 |

寸 評：今月は黒沢弘子さんの「桜とベンチ」を主題にしたお題写真でした。

ただ写真からは、桜が咲いた華やかな気分は全く感じられず、どちらかという暗い、静かな句が多く出され、甲乙付け難たく入選句が増えました。

例えば、1) と 7) の句のように不貞腐れとか不安を詠ったものや、3)、5) の句のように、咲いても人がいないとか、静かに散る桜を詠むものが多い中で4) のように誰かを殺してしまったような極端な句もありました。

そのような中で2) のように「いろは」の句を持ち出して超然とした態度に終始する方もいれば、6) のように写真の内容とどう関係があるのかアツケラカンとした句を作る方もおられました。

いずれにしてもどんな写真がきてもなんとか句を捻り出す根性と技術は3年間の訓練で十分に醸成されたようで、ご同慶の至りです。 以上